

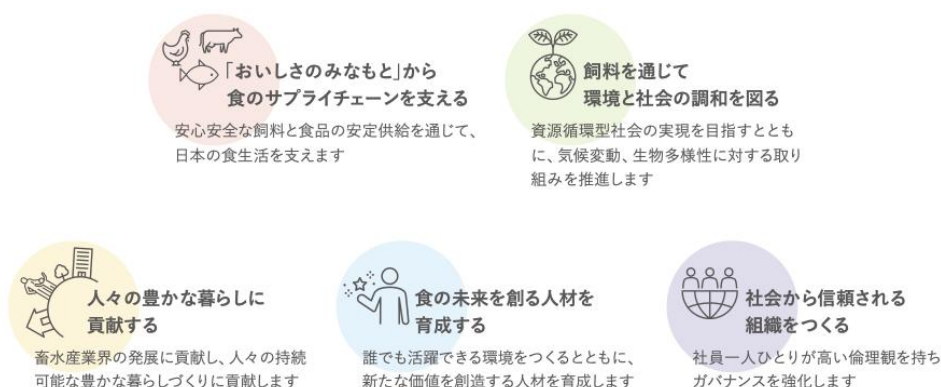
企業名： フィード・ワン株式会社

レポート名： フィード・ワン統合報告書 2024

1. この会社が目指す姿が理解できるか（将来）

理解できる。

フィード・ワンは、事業環境の変化を認識し、それに対応するためにマテリアリティを見直し、「One's アクション」を新たに掲げている。中でも、「食の未来を創る人材を育成する」と「飼料を通じて環境と社会の調和を図る」の2項目が特に印象に残った。



まず、「食の未来を創る人材を育成する」については、同社が「旧態依然とした習慣や考え方が多く残っており、改革は簡単ではない」と飼料業界の課題を率直に認めている点が特徴的である。また、経営計画の目標を達成できた理由を「営業力の強さ」にあるとする記述から、同社が人的資本に強く依存していることが伺える。現状の課題と理想とのギャップを正しく認識した上で、マテリアリティを定め、その実現に向けた行動を取っている姿勢から、将来目指す姿が明確に伝わってきた。

次に、「飼料を通じて環境と社会の調和を図る」では、気候変動による影響が大きい飼料業界において、環境負荷を抑えた資源活用が自社および社会にとって有益であるとの認識が示されていた。実際に、環境負荷低減に向けた具体的な取り組みが報告書に詳述されており、その実行性についても理解しやすかった。

2. この会社の競争優位性が理解できるか（現在）

理解できる点と、やや不明確な点がある。

同社は飼料業界においてリーディングカンパニーに成長してきたと強調しており、資金力や技術面で他社に対する競争優位性を有していることは報告書から明確に読み取れた。また、業界全体の販売数量が横ばいである中でも、同社は着実にシェアを拡大しており、実績としての成果が確認できた。

一方、その実績の要因として、トップメッセージでは「営業力の証であり、当社のコト売り営業が他社には代替できないサービスである」と述べられているが、それを裏付ける具体的な事例や施策は他のページには見当たらなかった。そのため、「営業力」がどのようにして競争優位性となっているのかについては、少し疑問が残った。一方で、飼料の開発技術や製造管理・供給体制の高度さについては具体的に記載があり、これらが実際に評価されているように感じた。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか（変化）

理解できる。

同社は業界のリーディングカンパニーとして、人的資本経営を推進し、従業員エンゲージメントや給与水準の向上に注力している。これにより、優秀な人材の確保と定着という点で、持続的な競争優位性を確保できると理解できた。

また、「継続的収益力強化と生産体制の刷新・増強」を掲げ、8年間で約800億円という大規模な設備投資を計画している点も注目に値する。この投資額は同業他社と比較しても高水準であり、同社が将来の事業拡大と変化対応力の強化に本気で取り組んでいることがうかがえる。これらの取り組みによって、競争優位性の持続が可能であると判断した。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

今後の環境や自身の適応次第では、達成できる可能性が高いと考える。

まず、飼料業界はDXの導入がまだ発展途上であるため、若手人材が積極的に新しい仕組みや技術を提案・実行できる余地が大きい。こうした環境は、自らの人的資本価値を高めるチャンスであると考えられる。

また、同社が今後海外市場への進出を視野に入れている点も注目に値する。グローバル展開のフェーズにおいて、異なる文化や言語環境に対応できる人材の価値は高く、自身の海外バックグラウンドを活かして貢献できる可能性があると感じている。

一方で、同社は伝統的な業界に属しており、旧来の考え方や慣習が残る組織文化の中で、自身の意見が十分に通らない場面もあるかもしれない。そのような環境では、意思疎通の難しさが自分の力を最大限に発揮する障壁となるリスクもあると感じている。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

よかった点

- ① 技術力の高さを具体的に記載し、投資家に安心感を与える構成になっている。飼料の製造技術や管理体制、品質へのこだわりなどが丁寧に説明されて、技術的な裏付けのある経営であることが読み取れる。そのため、ステークホルダーに対して信頼感を与える報告書になっていると感じた。
- ② 業界および自社の課題を率直に開示し、それに対する取り組み姿勢が示されている。例

えば、「旧態依然とした業界の慣習」「気候変動の影響」など、外部環境のリスクについても正直に記載した上で、自社がどのように対応しているのかを具体的に記述している。このような姿勢は、単なる広報資料に留まらない、誠実な企業姿勢として評価したい。

改善の余地

① p.16～17の「リスク」と「機会」の提示順が統一されず、混乱を与える可能性があると考えられる。同じページ内で「リスク→機会」と記載されている項目と、「機会→リスク」と記載されている項目が混在している。その結果、何が主たる論点なのかが読み取りづらく、「これはリスクなのか？機会なのか？」という印象を与えてしまう。

② DX導入や人的資本経営に関する効果の定量的・具体的な記載が不足している。DXや人的資本経営への取り組みは報告書内で強調されているが、それが実際にどのような成果や変化をもたらしたのかについては、抽象的な表現にとどまっている印象を受けた。